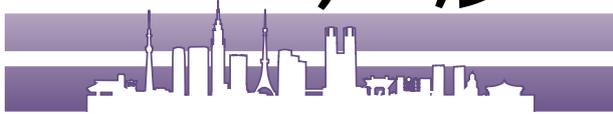


東京アラカルト



Vol. 4

阿南市東京事務所の活動や、東京で活躍する阿南市出身の方々などを紹介するコーナー

「富岡西高校修学旅行生と東京牛岐会との交流会」

6月24日、富岡西高校の修学旅行生と東京牛岐会（富岡西高校の関東地区の同窓会）が東京品川で一堂に会し、職業観をはじめ、将来の進路選択等について語り合い、先輩・後輩との交流を深めました。

この交流会は、高校の公式行事として修学旅行生260人全員が参加することもあって、東京牛岐会の事務局を務める戸谷涼賀さん、松田浩行さん、二階透浩さんの3人が奔走し、首都圏に在住する卒業生約60人を集めて実現にこぎ着けました。



冒頭、東京牛岐会の吉形孟美会長が、「諸君には、富岡西高校で培った自信と誇りをもってこれからの人生に立ち向かっていってほしい」とあいさつしました。次に、卒業生を代表して4人（久田耕資さん、太田紀子さん、大上賢一郎さん、酒本昇尚さん）が自分たちの人生経験をスピーチし、そのあと、各グループに分かれて卒業生と修学旅行生とが語り合いました。

4人の卒業生のうち太田紀子さんのスピーチを紹介します。

「皆さん、私に関係のある数字、78って、何だと思いませんか？『78』は、私の高校時代の英語の点数です。100点満点ではありません。200点満点での成績です。そんな私は高校卒業後、日本の大学の英米文学科に入学。専門課程に上がるタイミングでインディアナ州立大学政治学部編入し、卒業後ロンドン大学大学院で国際政治学を学び修士号を取得しました。

あの時の78点は、何を意味していたのでしょうか？78点は、その時の私を映し出していたことに間違いはありませんが、それは成長過程の一瞬を切り取った『写真』のようなもので、その後の人生を決めるものではなかったということです。大切なのは、そういう事実・現実を踏まえながら自分の歩むべき方向を見定め、一歩を踏み出す勇気を持つということです。皆さん、今の点数、今の勉強の苦手が未来永劫続くとは思わないでください。可能性は自分が自分にふたをしたときにだけ閉ざされます。自分が心底やりたいと思うことがあり、努力し続けていくなれば、何らかの道は開けます。良かったとしても悪かったとしても、少なくとも自分に納得のいく結果を得ることができると思います。皆さんには、自らの可能性にふたをせず、とことんやる勇気を持ってもらいたいと思って、この場に立たせていただきました」

